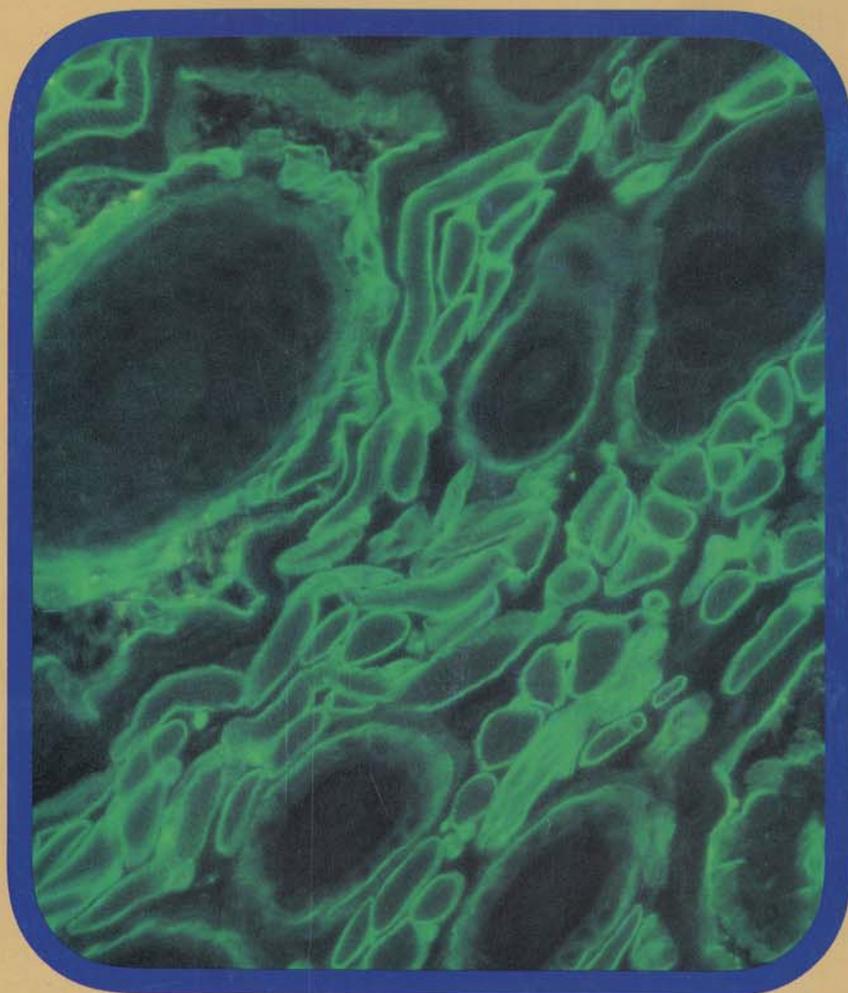


創刊号

さくらじま

1987



鹿児島大学医学部 耳鼻咽喉科学教室

発刊によせて

小さな出会いが人生を決め、その人の歴史を作りあげていく。

「鹿大耳鼻科との出会いがなかったら、私の歩んだ人生は、大きく変わったものとなっていたと思う」、赴任10年目を迎えて、私の胸にこんな感慨がこみ上げてくる。先輩、後輩の良き理解者、協力者に恵まれて、国内外の人々と等しく交流できる教室になり、この秋には、医学部の幾つかの教室と協同して、「複合糖質と医学」に関する国際シンポジウムを開けるまでになった。一人の天才に頼るのではなくて、多くの研究者の努力と和によって、ここまで辿りついたのである。このようなときに、誰いうとなしに、教室の年間の行事や仕事を紹介し、かつ交見の場として活用できる冊子を発行しようという気運が盛り上ったのは時宜を得たものであった。準備期間は、3ヶ月を要しなかったと思う。創刊号は、教室の年間研究業績集となったくらいはある。しかし、ひとりひとりが、これらに目を通すことによって、満足し、あるいは発憤して自己啓発されるとすれば、その意義は大きく、十分目的を達成しうるものと思う。

「個が埋もれず、個が走らず」の自主開発の精神をモットーに、次なる10年目に向って躍進したいと願うのは、私一人ではないと思う。

昭和62年3月24日

大 山 勝

目 次

発刊によせて	
教室来訪者	1
教室行事	2
地域医療協力	5
各省庁諸研究	6
業 績	7
1. 論文発表	7
2. 著 書	15
3. 総 説	17
4. 研究報告書	17
5. 学会発表	18
A. 国際学会	18
B. 国内学会	21
医局内人事	30
関連病院だより	31
同 門 会 名 簿	42
編 集 後 記	47

教室来訪者（61年1月～12月）

1月	日本医科大学耳鼻咽喉科 福岡大学耳鼻咽喉科	中村賢二講師 曾田豊二教授
2月	宮崎医科大学耳鼻咽喉科 順天堂大学耳鼻咽喉科 三重大学耳鼻咽喉科 韓国，延世大学耳鼻咽喉科	森満 保教授 河村正三教授 坂倉康夫教授 金 永明教授
3月	岐阜薬科大学薬理学	江田昭英教授
4月	Netherland, University of Utrecht 山口大学耳鼻咽喉科 金沢医科大学耳鼻咽喉科 関西医科大学耳鼻咽喉科	Prof. Veldman 関谷 透教授 佐藤喜一教授 熊澤忠躬教授
5月	昭和大学形成外科 日本大学耳鼻咽喉科	鬼塚卓弥教授 菊地恭三教授
6月	三重大学第一解剖学 韓国，カトリック医科大学耳鼻咽喉科 富山医科薬科大学耳鼻咽喉科 大阪市立大学耳鼻咽喉科 熊本大学耳鼻咽喉科	瀧本 保教授 金 炳宇教授 水越鉄理教授 中井義明教授 石川 哮教授
8月	名古屋市立大学耳鼻咽喉科	馬場駿吉教授
9月	USA, Northwestern University 九州大学耳鼻咽喉科 広島大学耳鼻咽喉科	Dr. B. Menco 上村卓也教授 原田康夫教授
10月	Denmark, Univ. of Copenhagen	Prof. M. Tos
11月	台湾大学医学院耳鼻咽喉科 韓国 延世大学耳鼻咽喉科 韓国 延世大学耳鼻咽喉科 Canada, Univ. of Tronto	謝 地 教授 洪 元杓教授 金光文副教授 Prof. A. Noyek
12月	聖路加国際病院耳鼻咽喉科 東北大学耳鼻咽喉科	大西俊郎先生 高坂知節教授

教室行事

1. 主催した学会

日本耳鼻咽喉科学会鹿児島県地方部会講習会

日時：昭和61年1月26日(日)

内容：「聴力検査と補聴器適合の実際」 中村賢二（日本医科大学講師）

「耳鳴検査の実際」 會田豊二（福岡大学医学部耳鼻咽喉科教授）

第13回日本耳鼻咽喉科学会南九州合同地方部会学術講演会（鹿児島県地方部会第37回）

日時：昭和61年4月5日(土)

会場：人吉・グランドホテル鮎里

第11回日本耳鼻咽喉科学会 第38回鹿児島県地方部会総会並びに学術講演会

日時：昭和61年4月13日(日)

特別講演 ①鼻副鼻腔炎に対するレーザー手術 鹿児島市 山本 誠先生

②聴器毒を用いた内耳の電気生理学的研究

鹿児島市 朝隈真一郎先生

第45回九州癌学会

第26回日本肺癌学会九州地方会

日時：昭和61年7月11日(金)・7月12日(土)

会場：霧島ロイヤルホテル

第40回日本耳鼻咽喉科学会鹿児島県地方部会講習会

日時：昭和61年12月7日(日)

講習会テーマ 「滲出性中耳炎の病態と治療」

講師：高坂 知節教授（東北大学）

滲出性中耳炎の基礎

大西 俊郎先生（聖路加病院）

滲出性中耳炎の臨床

2. 鹿児島耳鼻咽喉科臨床会

1) 第14回例会

日時：昭和61年2月18日(火)

- 特別講演 ①「真珠腫の臨床」 森満 保 (宮崎医科大学耳鼻咽喉科教授)
②「頭蓋底疾患の臨床」 河村 正三 (順天堂大学耳鼻咽喉科教授)
③「Rhinoplasty」 関 陽基 (ソウル大学耳鼻咽喉科副教授)

2) 第15回例会

日時：昭和61年3月25日(火)

- 特別講演 「薬物による即時型アレルギー反応のコントロール」
江田 昭英 (岐阜薬科大学教授)

3) 第16回例会

日時：昭和61年4月22日(火)

- 特別講演 「滲出性中耳炎の成因について」
熊沢 忠躬教授 (関西医科大学耳鼻咽喉科学教室)

4) 第17回例会

日時：昭和61年6月5日(木)

- 講演 ①「漢方と西洋医学の接点」
竹尾 卓雄 (ツムラ順天堂医薬事業部)
②「めまいの治療」
水越 鉄理教授 (富山医科薬科大学耳鼻咽喉科学教室)
③「感音難聴の病態と治療」
中井 義明教授 (大阪市立大学耳鼻咽喉科学教室)

5) 第18回例会

日時：昭和61年9月25日(木)

- 講演 ①「耳鼻咽喉科新医療技術の診療応用」
原田 康夫教授 (広島大学医学部耳鼻咽喉科学教室)

②ビデオー健康へのアドバイスシリーズー「めまい」

上村 卓也教授（九州大学医学部耳鼻咽喉科学教室）

6）第19回例会

日時：昭和61年10月23日（木）

帰朝報告 「オハイオ州立大学留学を終えて」

花牟礼 豊先生（現国立水俣病研究センター）

講演 「Treatment of cholesteatoma」

Mirko Tos 教授（ENT Department The Gentofte Hospital
2900 Hellerup, Copenhagen Denmark

7）第20回例会

日時：昭和61年11月4日（火）

講演 ①「上咽頭腫瘍の臨床」 謝 地教授（台湾大学）

②Laryngeal pacemaker in the canine using temperature sensor

金 光文先生（延世大学）

③Diagnosis and treatment of parotid tumors

Prof. A. M. Noyek

地域医療協力

1. 学校保健

末吉町	(7校 1,496名)	伊仙町	(1,400名)
市来町	(3校 933名)		
始良町	(12校 2,386名)		
開聞町	(1校 331名)		
鹿児島市	(15校 8,000名)		

2. 巡回診療(県医務課)

61. 1. ~ 3.	与論町(巡回手術)
61. 7.	下甑村
61. 7.	三島村
61. 10.	十島村
61. 10.	上甑村
61. 12.	与論町(巡回手術)

3. 身体障害者巡回相談(県身体障害者更生相談所)

祁答院, 高尾野, 輝北, 日吉, 大浦, 徳之島, 伊仙, 天城, 始良, 福山, 下甑, 市来, 金峰, 志布志, 根占, 東郷, 菱刈, 上甑, 大隅, 佐多, 十島, 坊津, 東串良, 与論, 枕崎, 開聞

4. 上屋久町永田診療所協力

合計42回

5. 桜島火山ガス等健康影響監視事業(県保健予防課)

12月11日~12日 桜島町

6. 鹿児島市降灰検診(山下, 中央保健所)

8月施行

各省庁諸研究

◎文部省科学研究費

一般研究（A）：上気道粘膜病変に対する温熱療法に関する実験的ならびに臨床的研究

研究代表者 大山 勝
研究分担者 昇 卓夫
古田 茂

総合研究（A）：特発性顔面神経麻痺に関する疫学・臨床的研究

研究代表者 小池 吉郎（山形大）
研究協力者 大山 勝

一般研究（B）：実験動物アレルギーの現状と対策に関する研究

研究代表者 山内 忠平（鹿児島大学医学部附属動物実験施設）
研究分担者 昇 卓夫

奨励研究（A）：顔面筋電位のトポグラム表示法の開発と臨床診断への応用に関する研究

坂本 邦彦

◎厚生省花粉研究班

植物に起因するアレルギー症の基礎的臨床的研究

主任研究者 長野 準（国立南福岡病院）
班 員 大山 勝

◎環境庁

○大気汚染健康影響調査

鼻アレルギーの成因に関する臨床疫学的研究

研究代表者 内田 豊（慈恵医大）
班 員 大山 勝
古田 茂

○判断困難な事例の類型的考察に関する研究

班 員 大山 勝

業 績 (1986. 1 ~ 1986. 12)

1 論文発表

- 1) M. Ohyama, T. Nobori, Y. Miyazaki, J. Hirota, N. Daikuzono
Contact YAG Laser Surgery in the Treatment of the Head and Neck Tumors LASER, Optoelectronics in Medicine (Edited by Wilhelm Waidelich, Peter Kiefhaber), P 432-437, Springer-Verlag, 1986
- 2) M. Ohyama, T. Nobori, S. Furuta, T. Shima and I. Moriyama
New Future of Laser Medicine in Otolaryngology, and Head and Neck Surgery Nd: YAG Laser in Medicine and Surgery (Edited by Y. Oguro, K. Atsumi, SN. Joffe) P 403-408, Professional Postgraduate Services, 1986
- ※3) T. Nobori, M. Ohyama, K. Sakamoto, T. Shima, I. Moriyama, Y. Miyazaki, J. Hirota
Cancer Treatment Using a New Laser Apparatus. CANCER THERAPY 21 : 2 ; 260 1986
- 4) T. Nobori, M. Ohyama, T. Shima, Y. Miyazaki, J. Hirota, N. Daikuzono
Localized Hyperthermia Using Contact YAG Laser in the Treatment of Head and Neck Cancer LASER, Optoelectronics in Medicine (Edited by Wilhelm Waidelich, Peter Kiefhaber), P 438-442, Springer-Verlag, 1986
- ※5) T. Nobori, M. Ohyama, M. Hashimoto, I. Moriyama, Y. Miyazaki, J. Hirota
A Study of Localized Hyperthermia Using Nd-YAG Laser. Progress in Hyperthermic Oncology (Ed. by S. Egawa, Shinohara), P 162-163, Publishers Inc. 1986
- 6) T. Nobori, S. Furuta, Y. Miyazaki, J. Hirota and M. Ohyama
Tonsillectomy by Contact Nd: YAG Laser Surgery Nd: YAG Laser in Medicine and Surgery (Edited by Y. Oguro, K. Atsumi, SN. Joffe), P 413-417, Professional Postgraduate Services, 1986

- 7) M. Hashimoto, S. Furuta, K. Sakamoto, H. Yano, K. Fukami, T. Shima,
E. Tabuchi, J. Hirota, M. Ohyama
Local Hyperthermia on Upper Airway Mucosa. Progress in Hyperthermic
Oncology (Ed. by S. Egawa, Shinohara), P 160–161, Publishers Inc. 1986
- 8) T. Maeyama, M. Ohyama, H. Saitoh, T. Nobori
The effect of a macrolide antibiotic against experimental sinusitis
Rhinology, 24, P 141–145, 1986
- 9) S. Furuta, T. Nobori and M. Ohyama
Contact Nd: YAG Laser Surgery for Head and Neck Tumor. Nd:
YAG Laser in Medicine and Surgery (Ed. by Y. Oguro, K. Atsumi, SN,
Joffe), P 422–426, Professional Postgraduate Services, 1986
- 10) Y. Hanamura and D. J. Lim
Normal Distribution of Lysozyme- and Lactoferrin-secreting Cells in the
Chinchilla Tubotympanum Am J Otolaryngol 4 : 410~425, 1986
- ※ 11) Y. Hanamura, D. J. Lim
Immunohistochemical localization of lysozyme and lactoferrin in the
chinchilla tubotympanum Association for Research in Otolaryngology
P165, 1986
- ※ 12) D. J. Lim, Y. Hanamura and A. Hanamura
Functional organization of the auditory sensory hair cells Association
for Research in Otolaryngology P165, 1986
- ※ 13) K. Ueno, S. Matsunaga, M. Kouno and M. Ohyama
Functional Morphology of Polymorphonuclear Leukocyte —SEM
observation using back scattered electron — Proc. XI th Int. Cong
on Electron Microscopy, Kyoto, P 2509~2510, 1986
- 14) K. Ueno, J. Hirota, Y. Miyazaki, S. Furuta, T. Nobori and M. Ohyama
Contact Nd: YAG Laser Surgery for Allergic and Hypertrophic Rhinitis.
Nd: YAG Laser in Medicine and Surgery (Edited by Y. Oguro, K. Atsumi,
SN. Joffe), P 432~436, Professional Postgraduate Services, 1986

- 15) I. Moriyama, T. Nobori, K. Ueno, Y. Miyazaki and M. Ohyama
Localized Hyperthermia Using Nd : YAG Laser Irradiation — Experimental
and Clinical Study— Nd : YAG Laser in Medicine and Surgery
(Edited by Y. Oguro, K. Atsumi, SN. Joffe), P 86~89, 1986
- 16) J. Hirota, Y. Miyazaki, M. Yamamoto, T. Nobori and M. Ohyama
Nd : YAG Laser Antrostomy Using a Flexible Fiberscope Nd : YAG
Laser in Medicine and Surgery (Edited by Y. Oguro, K. Atsumi, SN, Joffe),
P. 437~441, 1986
- 17) Y. Miyazaki, J. Hirota, M. Yamamoto, T. Nobori, M. Ohyama
Nd : YAG Laser Antrostomy Using a Flexible Fiberscope for Chronic
Sinusitis LASER, Optoelectronics in Medicine, (Edited by Wilhelm
Waidelich, Peter Kiefhaber), P 428~431, Springer-Verlag, 1986
- 18) Y. Miyazaki, H. Tsurumaru, S. Matsune, J. Hirota, K. Ueno, T. Shima,
K. Fukami, T. Nobori and M. Ohyama
Comparison of Histopathological Changes in the tongue after Nd : YAG
Laser and Carbon Dioxide Laser Irradiation. Nd : YAG Laser in
Medicine and Surgery (Edited by Y. Oguro, K. Atsumi, SN. Joffe),
P 417~421, Professional Postgraduate Services, 1986
- ※ 19) S. Matsune, K. Ueno, K. Fukami and M. Ohyama
Injection Replica Method Using Secondary Electron Images (Conventional
SEM) and Back Scattered Electron Images (BSE) — A study on
vascular networks of nasal mucosa — Proc. XI th. Cong. on Electron
Microscopy, Kyoto, P 2769~2770, 1986
- 20) 大山 勝
鼻副鼻腔疾患のレーザー治療 耳鼻臨床 79 : 5 ; 694~697, 1986
- 21) 大山 勝, 内菌明裕
鼻副鼻腔炎と補体 耳鼻臨床 79 : 8 ; 1214~1218, 1986
- 22) 大山 勝, 昇 卓夫, 上野員義, 島 哲也, 宮崎康博, 大工園則雄
頭頸部腫瘍に対する接触型 Nd-YAG Laser 手術 耳鼻臨床 補 3 ; P 1
~ 9 , 1986

- ※ 23) 大山 勝, 昇 卓夫, 島 哲也, 森山一郎
耳鼻咽喉科, 頭頸部外科領域におけるレーザー医学の近未来 日本レーザー医学
学会誌 6 : 4 ; 21~25, 1986
- 24) 馬場駿吉, 大山 勝, 花牟礼 豊, 伊東一則 他
副鼻腔炎に対する Azthreonam の薬効評価 耳鼻32; 93~112, 1986
- 25) 河村正三, 大山 勝, 勝田兼司, 昇 卓夫, 山本 誠, 橋本真実, 古田 茂, 松山
博文, 小川 敬, 清田隆二, 齊藤 寿, 坂本邦彦, 花牟礼 豊, 深水浩三, 他
耳用 Fosfomycin の化膿性中耳炎に対する用量設定比較試験成績 耳鼻 32 ;
113~144, 1986
- 26) 河村正三, 大山 勝, 小幡悦朗, 飯田富美子, 清田隆二, 廣田常治, 深水浩三, 島
哲也, 齊藤 寿 他
化膿性中耳炎に対する T-2588 と Cefaclor の二重盲検比較試験成績 耳鼻32 ;
758~781, 1986
- 27) 馬場駿吉, 大山 勝, 勝田兼司, 古田 茂, 大野 聖, 坂本邦彦, 前山拓夫, 大野
郁夫, 森山一郎, 深水浩三, 他
化膿性中耳炎に対する Norfloxacin の臨床効果について — Pipemidic acid と
の二重盲検試験による比較検討 — 耳鼻32 ; 843~867, 1986
- 28) 馬場駿吉, 大山 勝, 勝田兼司, 昇 卓夫, 橋本真実, 松崎 勉, 坂本邦彦, 廣田
常治, 島 哲也, 松山博文, 深水浩三, 田渕えり子, 清田隆二, 古田 茂 他
耳用 Fosfomycin (FOM) の慢性化膿性中耳炎および慢性化膿性中耳炎急性増悪
症に対する二重盲検比較試験成績 耳鼻32 ; 868~923, 1986
- 29) 馬場駿吉, 大山 勝, 古田 茂, 大野郁夫, 森山一郎 他
Norfloxacin の副鼻腔炎に対する臨床効果 耳鼻32 ; 924~945, 1986
- 30) 馬場駿吉, 大山 勝, 小幡悦朗, 飯田富美子, 齊藤 寿, 清田隆二, 深水浩三, 島
哲也 他
急性陰窩性扁桃炎に対する T-2588 の臨床評価 — 二重盲検法による Cefaclor
との比較試験 — 耳鼻32 ; 1045~1066, 1986
- 31) 河村正三, 大山 勝, 昇 卓夫 他
耳用 Fosfomycin (FOM) の小児中耳炎および外耳炎に対する臨床的検討 耳
鼻32 ; 1067~1089, 1986

- 32) 昇 卓夫, 橋本真実, 古田 茂, 大山 勝, 茂木五郎, 川内秀之
耳用 Fosfomycin の化膿性中耳炎に対する臨床的検討 耳鼻臨床79 : 4 ; 657
~667, 1986
- ※ 33) 昇 卓夫, 島 哲也, 宮崎康博, 廣田常治, 大山 勝, 大工園則雄
YAG LASER のハイパーサーミアへの応用 日本レーザー医学会誌 6 : 3 ;
71~76, 1986
- ※ 34) 前山拓夫, 松根彰志, 内菌明裕, 宮崎康博, 大山 勝
実験的副鼻腔炎における Carbocistein の効果 —形態学的ならびに生化学的検
討— 日本鼻科学会会誌 24 : 1 ; 223~224, 1986
- 35) 前山拓夫, 橋本真実
副鼻腔炎に対する抗生剤と酵素剤の併用 —その基礎的検討— 耳鼻臨床79 :
11; 1745~1749, 1986
- 36) 前山拓夫, 古田 茂, 森山一郎, 松崎 勉, 廣田常治, 内菌明裕, 村野建三,
大山 勝
耳鼻咽喉科領域感染症に対する Cefuroxime axetil (CXM-AX) の基礎的・臨床
的検討 Chemotherapy 34 : S- 5; 1078~1089, 1986
- 37) 前山拓夫, 大山 勝
副鼻腔炎に対するリゾチームの影響に関する実験的ならびに臨床的研究 耳展
29 : 補 1 ; 31~39, 1986
- 38) 前山拓夫, 大山 勝, 松根彰志, 小川和昭, 深水浩三, 飯田富美子, 大堀八州一,
内菌明裕, 松永信也, 上野員義, 今給黎泰二郎, 宮崎康博, 田淵えり子, 田中和代
片平聖子
副鼻腔炎に対する薬物療法 —実験的副鼻腔炎に対する Carbocisteine の効果—
耳展29 : 補 6 ; 447~457, 1986
- ※ 39) 小幡悦朗, 岩淵康雄, 河野正樹, 大山 勝
表情筋トポグラム——顔神麻痺の程度評価への応用 Facial N Res Jpn. 6 :
93~96, 1986
- 40) 花牟礼 豊
ヒト鼻粘膜のカラー走査電顕像 —組織化学的研究— 日耳鼻89 : 1 ; 40~
46, 1986

- 41) 福田勝則, 大山俊郎, 金丸和富, 織田弘美, 腰原康子, 大島 章
ヒト胎盤由来コラーゲンをういたヒト血管内皮細胞の培養 脈管学26:11;
1183~1187, 1986
- ※ 42) 清田隆二, 勝田兼司, 大堀八州一, 松山博文
特異な経過をとった耳性脳膿瘍の2症例 臨床耳科13:36~37, 1986
- 43) 溝井一敏, 坂本邦彦
物理療法の上気道粘膜・自律神経に及ぼす影響 頭頸部自律神経1:77~82,
1986
- 44) 加藤元一, 溝井一敏, 坂本邦彦, 清田隆二, 大山 勝 他
Rheometer の開発とその臨床応用 Therapeutic Research 4:6;1229~
1240, 1986
- 45) 深水浩三, 花牟礼 豊, 飯田富美子, 上野員義, 田中和代, 大山 勝
鼻副鼻腔粘膜の複合糖質に関する研究 —ネコ, サル, ヒトについての比較観
察— 耳鼻臨床79:4;649~655, 1986
- 46) 深水浩三
上気道粘膜における糖蛋白の組織化学的研究 —正常声帯と声帯ポリープにつ
いて— 日気食会報37(1):25~30, 1986
- 47) 矢野博美, 坂本邦彦, 橋本真実, 大山 勝
局所エアゾール温熱と鼻血流動態について Therapeutic Research 4:6;
1278~1284, 1986
- ※ 48) 矢野博美, 古田 茂, 大山 勝
粘膜の色調と血流 —局所温熱療法を中心として— 日本鼻科学会会誌24:1
82~83, 1986
- 49) 飯田富美子, 橋本真実, 坂本邦彦, 前山邦夫, 大山 勝
鼻アレルギーに対するヒスタミン加入免疫グロブリンとノイロトロピンの併用に
よるネブライザーの使用経験 耳展29:補冊1:61~67, 1986
- 50) 花田武浩, 古田 茂, 福田勝則, 坂本邦彦, 松永信也, 森山一郎, 大山 勝
当科における鼻アレルギー症例の臨床集計的観察 耳喉58:1:61~66,
1986

- 51) 花田武浩, 大野郁夫, 嘉川須美二, 松山博文, 花牟礼 豊, 橋本真実, 山本 誠
鹿児島県立大島病院における耳鼻咽喉異物症例の検討 耳 鼻32 : 3 ; 374~377,
1986
- ※ 52) 伊東一則, 小川 敬, 深水浩三, 大山 勝
実験的副鼻腔炎家兎におけるフコース, シアル酸に関する組織学的生化学的検討
日本鼻科学会会誌24 : 1 ; 209~210, 1986
- 53) 上野員義, 河野もと子, 松根彰志, 李 廷権, 昇 卓夫, 大山 勝
鼻副鼻腔乳頭腫の臨床病理学的検討 —細胞外成分に着目して— 耳鼻臨床
79 : 8 ; 1261~1267, 1986
- ※ 54) 上野員義, 深水浩三, 宮崎康博, 松根彰志, 大山 勝
鼻副鼻腔乳頭腫の免疫組織学的研究 —基底膜構成成分に着目して— 日本
鼻科学会会誌24 : 1 ; 124~125, 1986
- ※ 55) 内菌明裕, 河野もと子, 上野員義, 大山 勝
鼻副鼻腔の補体の研究 (II) 日本鼻科学会会誌24 : 1 ; 206~207, 1986
- ※ 56) 内菌明裕, 上野員義, 河野もと子, 大山 勝
頭頸部領域における分泌液中の補体の動態 免疫アレルギー 4 : 2 ; 58~59,
1986
- ※ 57) 松永信也
鼻汁中の好中球遊走能と貪食能について 日本鼻科学会会誌24 : 2 ; 267~269,
1986
- ※ 58) 森山一郎, 前山拓夫, 飯田富美子, 花田武浩, 今給黎泰二郎, 松崎 勉, 鱒坂孝二
大山 勝
幼児の耳鼻マススクリーニング 臨床耳科13 : 452~453, 1986
- 59) 森山一郎, 古田 茂, 矢野博美, 清田隆二, 大山 勝
咽喉頭異常感症患者の心理性格背景 耳鼻臨床79 : 7 ; 1107~1112, 1986
- ※ 60) 廣田常治, 宮崎康博, 山本 誠, 昇 卓夫, 大山 勝
Nd-YAG Laser を用いた保存的上顎洞手術 日本レーザー医学会誌 6 : 3 ;
461~464, 1986

※ 61) 宮崎康博, 松崎 勉, 上野員義, 島 哲也, 古田 茂, 昇 卓夫, 勝田兼司, 大山
勝, 大工園則雄

頭頸部腫瘍に対する接触レーザー手術 日本レーザー医学会誌 6 : 3 ; 371~
374, 1986

62) 松根彰志, 宮崎康博, 上野員義, 前山拓夫, 大山 勝

副鼻腔自然孔の病理組織学的検討 —1. 実験的副鼻腔炎家兔を用いて— 耳
展29 : 3 ; 255~262, 1986

※ 63) 松根彰志, 宮崎康博, 上野員義, 前山拓夫, 大山 勝

副鼻腔自然孔周囲の組織形態学 日本鼻科学会会誌24 : 1 ; 87~88, 1986

(注) ※は学会記録

2 著 書

- 64) 大山 勝, 編集企画
副鼻腔炎〈耳鼻咽喉科・頭頸部外科 MOOK No. 1〉 金原出版, 東京1986
- 65) 大山 勝
鼻咽腔線維腫摘出術
図説耳鼻咽喉科, 頭頸部外科手術書〈上巻〉・本多芳男 他 編, P190—191,
メジカルビュー社, 東京, 1986. 2
- 66) 大山 勝
過長茎状突起手術
図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科手術書(下巻), 本多芳男 他 編,
P66—67, メジカルビュー社, 東京, 1986. 2
- 67) 大山 勝
アデノイド——その機能・検査・治療効果
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 MOOK No. 3 扁桃炎, P200—208, 金原出版,
東京, 1986. 10
- 68) 勝田兼司
篩骨嚢胞
耳鼻咽喉科診断治療大系 第3巻, P120—121, 講談社, 東京, 1986
- 69) 山本 誠, 大山 勝
生理的上顎洞手術の適応と実際
副鼻腔炎〈耳鼻咽喉科・頭頸部外科 MOOK No. 1〉
大山 勝 編, P188—196, 金原出版, 東京, 1986
- 70) 橋本真実
音響学的検査
副鼻腔炎〈耳鼻咽喉科・頭頸部外科 MOOK No. 1〉
大山 勝 編, P151—161, 金原出版, 東京, 1986
- 71) 前山拓夫, 大山 勝
実験的副鼻腔炎を中心に
副鼻腔炎〈耳鼻咽喉科・頭頸部外科 MOOK No. 1〉
大山 勝 編, P75—82, 金原出版, 東京, 1986

- 72) 前山拓夫, 齊藤 寿, 大山 勝
実験的副鼻腔炎に対するリゾチームの作用
ノイチーム発売20周年記念研究会講演集 (渡辺桶, 岡本途也編), P48~54,
医歯薬出版, 東京, 1986
- 73) 古田 茂
CT 検査 (NMR-CT を含む)
副鼻腔炎 <耳鼻咽喉科・頭頸部外科 MOOK No. 1> P 127~137,
金原出版, 東京, 1986
- 74) 小川 敬, 大山 勝
鼻汁塗抹検査
副鼻腔炎 <耳鼻咽喉科・頭頸部外科 MOOK No. 1>
P 83~88, 金原出版, 東京, 1986
- 75) 坂本邦彦, 清田隆二, 今給黎泰二郎, 上野員義, 森山一郎, 勝田兼司, 大山 勝,
溝井一敏
繊毛運動に対するリゾチームの作用
ノイチーム発売20周年記念研究会講演集 P 33~38, 医歯薬出版, 東京, 1986
- 76) 深水浩三, 花牟礼 豊, 飯田富美子, 大山 勝
気道粘膜におけるリゾチームの局在と意義
ノイチーム発売20周年記念研究会講演集, P 13~20, 医歯薬出版, 東京, 1986
- 77) 松永信也, 古田 茂, 島 哲也, 大山 勝
ノイチームの好中球遊走能に及ぼす影響
ノイチーム発売20周年記念研究会講演集, P 27~30, 医歯薬出版, 東京, 1986

3. 総 説

78) 昇 卓夫

頭頸部癌の集学的治療 —レーザー—

癌と化学療法13, 4, P1784~1789, 1986

4. 研究報告書

79) 大山 勝, 古田 茂

社会環境と鼻アレルギー

環境庁委託研究結果報告書, 鼻疾患と環境研究会, P8~16, 1986

80) 大山 勝, 清田隆二, 古田 茂

耳鳴分析による病態診断の試み (第三報) —自記オージオメトリーの応用—

昭和60年度水俣病検診・審査促進に関する調査研究報告書, 1986

5 学会発表

A 国際学会

A-a 特別講演

中華民国耳鼻咽喉科医学会北区連合討論会

1月25日(台北)

1. M. Ohyama

Near Future of Laser Medicine in Otolaryngology and Head and Neck Surgery

INTERNATIONAL CLINICAL CONFERENCE IN THE OHIO STATE UNIV

7月26日(コロンバス, オハイオ, USA)

2. M. Ohyama

Contact Nd-YAG Laser Application into Head and Neck Cancer

INTERNATIONAL CLINICAL CONFERENCE IN EMORY UNIV

7月30日(アトランタ, USA)

3. M. Ohyama

Laser Therapy in Head and Neck Region

鹿児島・大分・延世大学耳鼻咽喉科合同ミーティング

8月21日(ソウル)

4. M. Ohyama

Contact Nd-YAG Laser Surgery in Head and Neck Region

5. R. Kiyota

An Observation of Mucociliary Activity in a Bird's Eye View

INTERNATIONAL Nd-YAG LASER SYMPOSIUM

11月1日～3日(東京)

6. M. Ohyama

Near Future of Laser Medicine in Otolaryngology and Head and Neck Surgery

台湾耳鼻咽喉科学会

11月8日～9日(台北)

7. M. Ohyama

Topical Administration of Antibiotics into the Tympanic Cavity and Cochlear Injury — Experimental and Clinical Studies —

A-b シンポジウム

THE IX INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON OLFACTION AND TASTE

7月20日～24日(コロラド, USA)

8. M. Ohyama, Kei Ogawa, K. Fukami, E. Tabuchi, K. Ueno, K. Tanaka
Comparative SEM and Histochemical Studies of Lingual Papillae in
Some Animals
9. J. G. Lee, M. Ohyama, E. Obata, K. Ueno, S. Katahira
Olfaction Test in the Laryngectomized Patients by the Artificial Airway
Tube Method
10. K. Ueno, Y. Hanamura, J. G. Lee, M. Ohyama
Functional Morphology of the Olfactory Epithelium

INTERNATIONAL Nd-YAG LASER SYMPOSIUM 11月1日～3日(東京)

11. T. Nobori, S. Furuta, Y. Miyazaki, J. Hirota, M. Ohyama
Tonsillectomy by Contact Nd-YAG Laser Surgery
12. S. Furuta, T. Nobori, M. Ohyama
Contact Nd-YAG Laser Surgery for Head and Neck Tumor
13. K. Ueno, Y. Miyazaki, J. Hirota, T. Nobori, M. Ohyama
Contact Nd-YAG Laser Surgery for Allergic and Hypertrophic Rhinitis
14. I. Moriyama, T. Nobori, K. Ueno, Y. Miyazaki, M. Ohyama
Localized Hyperthermia Using Nd-YAG Laser Irradiation
15. Y. Miyazaki, J. Hirota, K. Ueno, T. Shima, K. Fukami, T. Nobori,
M. Ohyama
Comparison of the Tongue Response to Injury by Contact Nd-YAG
Laser and Carbon Dioxide Laser
16. J. Hirota, Y. Miyazaki, S. Furuta, M. Yamamoto, T. Nobori, M. Ohyama
Nd-YAG Laser Antrostomy Using a Flexible Fiberscope

A-c 一般講演

THE 9TH MIDWINTER RESEARCH MEETING OF ASSOCIATION FOR
RESEARCH IN OTOLARYNGOLOGY 2月2日～6日(フロリダ, USA)

17. Y. Hanamure, D. J. Lim
Immunohistochemical Localization of Lysozyme and Lactoferrin in the
Chinchilla Tubotympanum

18. D. J. Lim, Y. Hanamure, A. Hanamure
Functional Organization of the Auditory Sensory Hair Cells

EUROPIAN RHINOLOGIC SOCIETY 11th E.R.S. CONGRESS AND 5th
ISIAN 6月15日～18日(アテネ)

19. M. Ohyama, M. Hashimoto, S. Furuta, H. Yano and K. Sakamoto
Effect of Local Hyperthermia on Upper Respiratory Airway Mucosa

20. T. Hanada, K. Sakamoto, M. Kawano, M. Ohyama, K. Miyazaki,
T. Yamauchi
Epidemiologic and Immunologic Study of Laboratory Animal Allergy

21. S. Matsune, M. Kawano, Y. Miyazaki, K. Ueno, T. Maeyama, M. Ohyama
Histopathological Study of Nasal Ostium in Experimental Sinusitis of
Rabbits

第20回国際音声言語医学会議 8月3日～7日(東京)

22. K. Ogawa, M. Hashimoto, K. Mizoi, E. Obata, M. Ohyama
A Study on Speech Signals and External Vibration Picked Up in the
Maxillo-Facial Region

XTH INTERNATIONAL CONGRESS ON ELECTRON MICROSCOPY
8月31日～9月7日(京都)

23. K. Ueno, S. Matsunaga, M. Kouno, M. Ohyama
Functional morphology of polymorphonuclear leukocyte
— SEM observation using back scattered electron —

24. S. Matsune, K. Ueno, K. Fukami, M. Ohyama
Injection replica method using secondary electron images (conventional SEM) and back scattered electron images (BSE) — A study on vascular networks of nasal mucosa
台湾耳鼻咽喉科学会 11月8日～9日(台北)
25. K. Katsuda, M. Ohyama
Clinical study of malignant lymphoma involving head and neck region
26. K. Murano, E. Obata, Y. Iwabuchi, M. Kawano, M. Ohyama
Face EMG topogram — Its application in the evaluation of the facial nerve paralysis
27. A. Uchizono, K. Ueno, S. Furuta, M. Ohyama
A study of complement system in chronic sinusitis
28. K. Itoh, T. Matsuzaki, K. Fukami, M. Ohyama
Multiple primary malignant tumors in our clinic during last seven years

B 国内学会

B-a 特別講演

- 第1回九州ブロック連合地方部会学術講演会 9月6日～7日(博多)
29. 大山 勝
鼻副鼻腔の粘液線毛輸送能と生体防御機構
富山県耳鼻咽喉科医会研究会 7月2日(高岡)
30. 大山 勝
鼻副鼻腔炎の病態と治療——アレルギーと鼻副鼻腔
第17回滋賀医科大耳鼻科学術研修会 7月17日(京都)
31. 大山 勝
鼻アレルギーの保存的療法
——新しい薬物療法ならびに加熱エアロゾル療法——
北海道耳鼻咽喉科医会講演会 8月28日～29日(札幌)
32. 大山 勝
鼻副鼻腔炎の病態からみた治療

- 日本耳鼻咽喉科学会第38回宮崎県地方部会学術講演会 12月6日(宮崎)
33. **大山 勝**
耳鼻咽喉科感染症の薬物療法
茨木県耳鼻咽喉科懇話会 12月2日(筑波)
34. **大山 勝**
鼻副鼻腔粘膜病態の診断的治療
馬場駿吉教授開講10周年記念同門会講演会 8月2日(名古屋)
35. **大山 勝**
頭頸部外科とレーザー手術
薩摩郡医師会・生涯教育委員会主催学術講演会 11月18日(鹿児島)
36. **大山 勝**
鼻アレルギーと気管支喘息
佐世保医師会研究会 11月20日～23日(佐世保)
37. **大山 勝**
鼻アレルギーの保存的療法 ～薬物療法から物理療法まで～
社保国保審査委員合同学術講演会 11月10日(鹿児島)
38. **大山 勝**
上気道アレルギーの診断と治療
第2回耳鼻咽喉科漢方研究会 5月31日(札幌)
39. **大山 勝**
耳鼻咽喉科漢方療法の実際 ——副鼻腔炎の漢方療法の理論——
(大阪市環境保健局小児保健センター, 大迫茂人氏との鼎談)
第2回関東喀痰研究会 6月20日(東京)
40. **大山 勝**
上気道分泌物における複合糖質の意義
第3回九州呼吸器疾患研究会 6月28日(福岡)
41. **大山 勝**
副鼻腔と下気道

エーザイ筑波研究所講演会 12月1日(筑波)

42. 大山 勝

上気道粘膜病態と糖タンパク

日耳鼻鹿児島県地方部会講習会 12月7日(鹿児島)

43. 李 廷権

留学1年を振り返って

鹿児島耳鼻咽喉科臨床会第19回例会 10月23日(鹿児島)

44. 花牟礼 豊

オハイオ州立大学留学を終えて

鹿児島耳鼻咽喉科臨床会第15回例会 3月25日(鹿児島)

45. 飯田富美子

鼻アレルギーに対するリザベンの使用経験

B-b シンポジウム

第25回日本鼻科学会 9月19日～20日(旭川)

46. 深水浩三, 前山拓夫, 昇 卓夫

「副鼻腔炎の保存的治療の検討とその限界」

自然孔の病態とその治療

第10回日本医用エアロゾル研究会 10月9日(大分)

47. 矢野博美

鼻局所温熱エアロゾル療法の基礎と臨床

頭痛・肩こりシンポジウム ——頭痛・肩こりを考える—— 7月5日(鹿児島)

48. 小幡悦朗

耳鼻咽喉科領域の立場から

——ミオナルのめまい・耳鳴りに対する効果を含めて——

第3回九州耳鼻咽喉科アレルギー薬物研究会 9月27日(阿蘇)

49. 島 哲也

鼻副鼻腔炎とロイコトリエン, その薬物効果

第15回医学生物学のための走査電顕シンポジウム 11月9日～11日(新潟)

50. 松根彰志, 鶴丸浩士, 上野員義, 深水浩三, 花牟礼 豊, 大山 勝

二次電子及び反射電子を用いた血管鋳型観察法

第20回味と匂のシンポジウム 12月1日～3日(筑波)

51. 坂本邦彦, 李 廷権, 清田隆二, 上野員義, 内菌明裕, 松永信也, 廣田常治,
宮崎康博, 島 哲也, 古田 茂, 小幡悦朗, 大山 勝

喉頭全摘者の嗅覚機能検査成績

52. 李 廷権, 上野員義, 小幡悦朗, 田中和代, 深水浩三, 大山 勝

喉頭摘出後の犬嗅上皮の走査電顕的観察

B-c 一般演題(全国学会, 地方会, 研究会)

第87回日耳鼻総会, 学術講演会 5月27日～31日(札幌)

53. 森山一郎, 昇 卓夫, 上野員義, 廣田常治, 宮崎康博, 鰐坂孝二, 大山 勝,
高尾尊身

Nd-YAG Laser を用いた局所温熱療法

——ヌードマウス移植ヒト甲状腺未分化癌実験を中心に——

54. 上野員義, 松永信也, 河野もと子, 大山 勝

白血球貧食能の機能形態学的検索

——反射電子を用いた走査電顕的観察——

55. 島 哲也, 古田 茂, 廣田常治, 今給黎泰二郎, 大山 勝

高圧酸素療法と滲出性中耳炎

56. 矢野博美, 橋本真実, 坂本邦彦, 原口兼明, 大山 勝

鼻局所温熱エアロゾル療法

57. 原口兼明, 大堀八州一, 内菌明裕, 松根彰志, 大山 勝

鼻腔通気度と習慣性扁桃炎

第9回日本顔面神経研究会 6月13日～14日(東京)

58. 廣田常治, 今給黎泰二郎, 古田 茂, 大山 勝

過去2年間における顔面神経麻痺患者の保存的治療の検討

59. 小幡悦朗, 古田 茂, 大堀八州一, 河野正樹

肉眼的麻痺評価法と表情筋トプログラム

第10回日本頭頸部腫瘍学会

6月25日～27日(仙台)

60. 松崎 勉, 花田武浩, 伊東一則, 宮崎康博, 大山 勝
頭頸部癌における血中扁平上皮癌関連抗原測定の有用性
61. 勝田兼司, 大山 勝
当教室における頭頸部悪性リンパ腫の集中的観察
62. 伊東一則, 小川和昭, 坂本邦彦, 大山 勝
中咽頭に発生した巨大 Fibrolipoma の1例
63. 森山一郎, 昇 卓夫, 上野員義, 廣田常治, 鯉坂孝二, 大山 勝
Nd-YAG Laser による頭頸部腫瘍に対する局所温熱療法

第48回耳鼻咽喉科臨床学会

7月4日～7日(和歌山)

64. 花田武浩, 深水浩三, 飯田富美子, 森山一郎, 大山 勝
鼻腔原発の acinic cell tumor の一症例
65. 伊東一則, 宮崎康博, 昇 卓夫, 大山 勝
口蓋に発生した monomorphic adenoma の一例
66. 内藺明裕, 廣田常治, 大山 勝
甲状腺原発悪性リンパ腫の一例
67. 昇 卓夫, 島 哲也, 森山一郎, 宮崎康博, 廣田常治, 大山 勝
Nd-YAG Laser による局所温熱療法
68. 古田 茂, 大山 勝, 内田 豊, 遠藤朝彦, 高坂知節, 笠原行喜, 馬場駿吉
社会環境の変化と鼻アレルギーの発症について
——学校検診結果からの考察——
69. 李 廷権, 上野員義, 松根彰志, 大山 勝
気道粘膜におけるファイブロネクチンの免疫組織学的検索

第7回日本炎症学会

7月25日～26日(東京)

70. 島 哲也, 内藺明裕, 大山 勝
接触型 Nd-YAG レーザー照射における PGE₂, HETE'S の変動について
71. 松根彰志, 宮崎康博, 上野員義, 前山拓夫, 大山 勝
家兎実験的副鼻腔炎粘膜の組織化学的検索

第25回日本鼻科学会学術講演会

9月19日～20日(旭川)

72. 李 廷権, 小川和昭, 伊東一則, 深水浩三, 清田隆二, 大山 勝

犬鼻粘膜血管床に対する Histamin の薬理学的動態

73. 花田武浩, 島 哲也, 清田隆二, 昇 卓夫, 大山 勝

実験動物アレルギーに関する疫学的, 免疫学的検討

74. 古田 茂, 松崎 勉, 福田勝則, 大山 勝

鼻アレルギーに対する空気清浄療法

75. 廣田常治, 今給黎泰二郎, 宮崎康博, 橋本真実, 大山 勝

副鼻腔疾患における超音波検査法の有用性

76. 坂本邦彦, 清田隆二, 昇 卓夫, 大山 勝, 溝井一敏

干渉低周波の安全性に関する研究

第24回日本癌治療学会

10月7日～10日(松江)

77. 清田隆二, 坂本邦彦, 森山一郎, 島 哲也, 昇 卓夫, 大山 勝

最近10年間の悪性黒色腫の治療とその成績

——低フェニルアラニン, 低チロシン食について——

78. 森山一郎, 昇 卓夫, 宮崎康博, 大山 勝, 高尾尊身

悪性腫瘍に対する Nd-YAG Laser を用いた局所温熱療法

第16回日本耳鼻咽喉科感染症研究会

10月8日(大分)

79. 上野員義, 松永信也, 河野もと子, 大山 勝

白血球貪食能の機能形態学的検索

80. 齊藤 寿, 大野郁夫

県立大島病院における感染症の細菌学的検討

第14回日本臨床耳科学会

10月16日～18日(新潟)

81. 清田隆二, 松崎 勉, 橋本真実, 村野健三, 大山 勝

口蓋ミオクローヌスによる他覚的耳鳴症例, および, その治療法に関して

82. 島 哲也, 松永信一, 清田隆二, 大山 勝

外耳道原発悪性腫瘍の2症例

83. 今給黎泰二郎, 廣田常治, 宮崎康博, 岩淵康雄, 鶴丸浩士, 大山 勝, 出口浩一

中耳炎検出菌の月別推移

- 日本アレルギー学会 10月23日～25日(岐阜)
84. 古田 茂, 昇 卓夫, 大山 勝
鼻アレルギーに対する接触型 Nd-YAG レーザー手術とリザベン療法
- 第7回日本レーザー学会 10月30日～31日(東京)
85. 島 哲也, 内菌明裕, 大山 勝
鼻副鼻腔アレルギーとロイコトリエン
86. 宮崎康博, 廣田常治, 上野員義, 島 哲也, 深水浩三, 昇 卓夫, 大山 勝
接触型 Nd-YAG レーザーメス使用後の創傷治癒過程
87. 森山一郎, 昇 卓夫, 上野員義, 廣田常治, 宮崎康博, 大山 勝
Nd-YAG Laser による局所温熱療法
—— Cis-platin との併用効果について ——
88. 上野員義, 廣田常治, 宮崎康博, 昇 卓夫, 大山 勝
下鼻甲介切除に対する接触型 Nd-YAG レーザーの使用経験
89. 昇 卓夫, 大山 勝, 勝田兼司, 古田 茂, 宮崎康博, 廣田常治
頭頸部疾患に対する接触レーザー手術
- 第3回日本ハイパーサーミア学会 11月12日～16日(大阪)
90. 昇 卓夫, 森山一郎, 宮崎康博, 廣田常治, 大山 勝
Nd-YAG Laser による局所温熱療法
91. 宮崎康博, 矢野博美, 古田 茂, 大山 勝, 坂倉康夫, 原田康夫, 古内一郎,
馬場駿吉, 茂木五郎, 小川浩司, 須見六實
鼻アレルギー及び感冒時の鼻炎(初期感冒)に対する鼻局所温熱療法
——二重盲検比較試験による臨床的検討——
- 第38回日本気管食道科学会総会 11月14日～15日(東京)
92. 坂本邦彦, 矢野博美, 内菌明裕, 森山一郎, 廣田常治, 松根彰志, 古田 茂,
大山 勝
咽喉頭異常感症に関する性ホルモン及び唾液分泌機能の検討
93. 古田 茂, 廣田常治, 勝田兼司, 大山 勝
気管形成術を要した甲状腺癌の検討
- 第1回九州ブロック連合地方部会学術講演会 9月6日～7日(博多)
94. 花田武浩, 森山一郎, 清田隆二, 昇 卓夫, 大山 勝
実験的動物アレルギーの臨床統計

95. 矢野博美, 今給黎泰二郎, 古田 茂, 橋本真実, 大山 勝
 鼻炎に対する局所温熱エアロゾル療法
 第13回日耳鼻南九州合同地方部会学術講演会 4月5日(人吉)
96. 村野健三, 大野郁夫, 花牟礼豊, 山本 誠, 橋本真実, 松山博文, 花田武浩
 当院における慢性副鼻腔炎患者の現況
97. 鱒坂孝二, 矢野博美, 前山拓夫, 森山一郎, 河野もと子, 松根彰志
 副鼻腔炎術後感染症の検討
98. 矢野博美, 大山 勝, 昇 卓夫, 古田 茂, 深水浩三, 宮崎康博
 鼻粘膜に対する局所温熱療法
99. 原口兼明, 小幡悦朗, 村野健三, 小川 敬, 今給黎泰二郎, 廣田常治
 習慢性扁桃炎と鼻腔通気度
100. 坂本邦彦, 清田隆二, 橋本真実, 島 哲也, 伊東一則, 上野員義, 松崎 勉
 干渉低周波の気道に及ぼす効果
101. 内菌明裕, 勝田兼司, 斉藤 寿, 松山博文, 大堀八州一, 松永信也, 田淵えり子
 甲状腺悪性リンパ腫の1症例
 第38回日耳鼻鹿児島県地方部会学術講演会 4月13日(鹿児島)
102. 松崎 勉, 花田武浩, 伊東一則, 宮崎康博, 大山 勝
 頭頸部領域癌における血中扁平上皮癌関連抗原測定の有用性
103. 島 哲也, 大山 勝
 鼻茸におけるロイコトリエン産生能の蓄足紅による抑制
104. 福田勝則, 大山 勝
 培養血管細胞と細胞外マトリックス
 九州癌学会 7月11日(鹿児島)
105. 古田 茂, 昇 卓夫, 勝田兼司, 大山 勝
 頭頸部腫瘍手術における接触型 Nd-YAG Laser の臨床的検討
106. 松崎 勉, 花田武浩, 伊東一則, 宮崎康博, 大山 勝
 頭頸部癌における血中扁平上皮癌関連抗原測定の有用性
 鼻疾患と環境研究会
107. 古田 茂, 大山 勝
 社会環境と鼻アレルギー 4月18日(東京)

第33回コラーゲン研究会 3月19日～20日(栃木)

108. 福田勝則, 大山俊郎, 金丸和富, 槌田靖代, 織田弘美, 腰原康子, 大島 章
ヒト血管内皮細胞増殖におけるコラーゲンの役割

第5回気道分泌研究会 3月1日(仙台)

109. 矢野博美, 坂本邦彦, 橋本真実, 大山 勝
局所エアロゾル温熱と鼻血流動態について

110. 加藤元一, 倉澤卓也, 川合 満, 久世文幸, 溝井一敏, 坂本邦彦, 清田隆二,
大山 勝
Rheometer の開発とその臨床応用

第3回九州耳鳴研究会 2月1日(福岡)

111. 清田隆二, 坂本邦彦, 矢野博美, 田淵えり子, 原口兼明, 河野正樹, 永野弘子,
大山 勝
耳鳴分析による病態診断の試み
——自記オージオメトリーの応用——

第4回咽喉頭異常感(症)研究会 6月7日(佐賀)

112. 古田 茂, 廣田常治, 矢野博美, 森山一郎
国立病院における咽喉頭異常感症外来の現況

113. 坂本邦彦, 矢野博美, 内菌明裕, 森山一郎, 古田 茂, 廣田常治, 松根彰志,
大山 勝
咽喉頭異常感症に関する性ホルモン及び唾液分泌機能の検討

第9回鹿児島感染症研究会 9月20日(鹿児島)

114. 今給黎泰二郎, 廣田常治, 宮崎康博, 岩淵康雄, 鶴丸浩二, 大山 勝, 出口浩一
中耳炎検出菌の月別推移

アゼプチン新発売記念講演会 11月20日(鹿児島)

115. 福田勝則
鼻アレルギーに対するアゼプチンの臨床効果

フルマーク学術講演会 7月11日(鹿児島)

116. 清田隆二, 小幡悦朗, 大山 勝
耳鼻咽喉科領域感染症における AT-2266 の臨床治験成績

医局内人事（昭和62年3月1日現在）

教授	大山 勝
助教授	勝田兼司
講師	昇 卓夫, 古田 茂
助手	前山拓夫 (Friedrich-Alexander 大学, 西ドイツ), 小幡悦朗 (Cincinnati大学, USA), 福田勝則, 坂本邦彦, 深水浩三, 清田隆二 (歯学部)
医員	松永信也, 村野健三, 今給黎泰二郎, 鈴木晴博, 大野文夫
研修医	岩淵康雄
大学院生	上野員義, 伊東一則, 内菌明裕, 松崎 勉, 松根彰志, 宮崎康博 鶴丸浩士
研究補助員	田中和代, 片平聖子, 永野弘子, 久保輝代, 二反田由美

関連病院出向

国立南九州中央病院	大野 聖, 鱒坂孝二
国立都城病院	矢野博美
国立水俣病研究センター	花牟礼 豊
国立療養所敬愛園	島 哲也
県立大島病院	大野郁夫, 斉藤 寿
県立北薩病院	橋本真実, 原口兼明
県立鹿屋病院	森山一郎
肝属郡医師会病院	小川 敬
曾於郡医師会立病院	河野もと子
薩摩郡医師会立病院	松山博文
藤元早鈴病院	花田武浩
国分中央病院	大堀八州一
市比野温泉病院	廣田常治
鹿児島生協病院	飯田富美子
新里病院	小川和昭

関連病院だより

国立南九州中央病院

大野 聖・鱒坂孝二

ここ南中は、鹿児島市内でも絶景の城山の麓にあり、何と、天文館までタクシーなら、うまくいけば基本料金で、歩いて10分少々という非常に便利な場所に位置しております。——おかげで10月、11月とよく天文館で飲んでしまった——

南中の総ベッド数は300床で耳鼻科の病棟は4階にあります。4階のベッドが約50床で、(皮膚科と小児科が同階です)現在耳鼻科の入院患者さんは15名程、通常疾患とCa.が半々といったところです。看護婦さんは約15名、若い娘から経験豊かな方々まで揃っています。

年間の手術件数は約250件で、春休み、夏休みの期間中はかなり忙しい日々だったそうですが、最近はやや楽になっているようです。

さて、外来の看護婦さんは1人ですが、看護婦歴ウン10年の超ベテラン、私は南中のお母さんと呼んでいます。そして、ボスは、この度めでたく40才の大台に乗られた大野聖先生で、私は南中のお父さんと呼んでいます。

前任者(現在の新納夫人、ひょっとしてこの原稿が出来あがる頃にはもう、えり子ママか?)が、かの市比野温泉病院経由で南中へ来られてめでたくゴールインされたので、私も密かな期待を抱いているのですが、南中のお父さんとお母さんは冷やかで、——川辺の親爺と御袋は、「いい加減に、したら?」とうるさいのですが——あせる事はない、まだまだ、というのがもっばらの3人の休憩時間の話のタネとなっています。(鱒坂)

国立都城病院

矢野博美

国立都城病院へ赴任して9ヶ月が過ぎました。総合病院という性質に加えて、立地条件の関係から、様々な訴えをもった患者が、来院しますので、気が抜けないと共に興味ある症例にも出会う機会が多くあります。その都度、色々と悩むわけでもありますが。しかしながら医局から応援に来て頂けるおかげで、なんとか手術も含め、診療を行っております。

当院は、医局に全科の先生方が、机を持っているため、横のつながりは、結構、濃厚で公私共に助かっております。専門外の知識も容易に得られますし、合併症が起こった時など、本当に助かります。又、手術室においても暇な時は、他科の手術を見学する事もできますし、そういう意味では、なかなか面白い病院ということができましよう。都城は気候的にも予想に反して過ごしやすい土地です。今冬も、盆地特有の寒さというものに未だあっておりませんし、まあ、官舎病院が数分の距離ですので、内線で呼ばれてもすぐ駆けつけられます。一人で診療をしていますと、様々な不安を伴いますが、これも1つの勉強でしょうし、医局からも何時でも応援が頂けますので、心強く今後も頑張るつもりであります。

国立療養所敬愛園

島 哲也

昭和61年4月1日より敬愛園の常勤となり、火曜、水曜を敬愛園にて、その他の日を大学の部外研究生として診療、研究を行っています。

敬愛園では、内科、病理の医師が「癩」における末梢神経障害の研究を続けられており、耳鼻咽喉科的にもこの問題に取り組んでもらえないかとの依頼を受け、頭頸部領域における末梢神経ということで、脳神経についてこの9ヶ月間、取り組んできました。まず手始めということで、聴神経の障害の有無を検索することを目的に、敬愛園入園患者約800名の中から、543名に標準純音聴力検査を施行しました。その結果、「癩」における聴神経の障害は、正常者のそれと変わらないということが判明しました。

今後も、三叉神経、顔面神経、嗅神経等の問題にも範囲を広げて検索を続けていきたいと思っております。

県立大島病院

大野郁夫・斉藤 寿

県立大島病院は昭和59年に改築された、職員363人（医師38人）、400床の総合病院です。耳鼻咽喉科は昭和47年勝田兼司先生が赴任されて以来、大野郁夫部長が5代目になります。現在、診療は毎日午前中が外来で、午後は月水金が手術日、火金がアレルギー

外来、木が難聴外来を行っています。外来数は平均約60人、病棟は15床です。秋頃より悪性腫瘍患者が急増し、そのほとんどを占める様になりました。通常疾患の患者さんは他科ベッドを借りたりして何とかやっています。当病院は喜界、与論、沖永良部、徳之島等の離島僻地の二次救急も担っており、病院当直の時は全科を診なければならないので救急車のサイレンに胆が冷やされます。さて夜はタクシーで560円といたって恵まれた位置に繁華街、屋仁川があり、アルコール分40°の黒糖酒、さらに南国らしい開放的な美女?が待っています。おまけにその料金は $\frac{1}{3}$ 程度ですから天文館の3倍はアルコールが飲めます。一方大島本島周辺は釣りのメッカで大野先生は釣りクラブ魚闘会の会長をしています。釣果があった時は宴会がはじまりますが、私は魚闘会の宴会要員です。会費を納めているのでその時ばかりは権利を主張し、思いきり新鮮な魚と黒糖酒を飲んでいます。又今年4月に本格的ゴルフ場が新設され、楽しみが1つ増えました。現在の所、最高スコアは95ですが、今後も暇をみつけてプレーしたいと思っています。最後になりましたが、名瀬で開業されている嘉川須美二先生も元気で頑張っておられます。3人共教室の皆様とお会いできるのを楽しみにしています。来島の際にはぜひ御一報下さい。

(文責 斉藤)

県立北薩病院

橋本真実・原口兼明

焼酎発祥の地、ここ大口に本年4月新装オープンした県立北薩病院では、山の中という地の不利にも拘らず、日増しに診療内容の発展をみています。当科でも昭和55年10月の開設以来、各先生が築いてきた実績を引き継ぎ、今では日々の外来平均70~80名、アレルギー外来のある金曜日は約140名にもものぼっています。大口はもとより、菱刈、栗野、横川、吉松、えびの、出水、阿久根、長島、水俣、鶴田、宮之城、東郷とかなりの広範囲から患者が集っています。

入院患者も常時10名を越え、中でも放射線科の充実のお陰で悪性腫瘍患者を収容できるようになったことは特筆すべきことと言えます。この9ヵ月間に、耳下腺、鼻腔、上顎、舌、中咽頭、下咽頭、喉頭、甲状腺とほぼ頭頸部全領域にわたる腫瘍を扱い、手術も喉頭全摘をはじめ、舌全摘、上顎全摘と大学並みの内容となりました。原口先生も手術の上達が早く、扁桃摘、鼻中隔矯正術、上篩根治術などはほぼ完全に1人でやっ

す。

医局では内科，神経内科，外科，脳外科，放射線科，小児科，耳鼻科の19名の医師がいますが，こうした中規模の出張病院ならではのよき人間関係が保たれています。若干，田舎すぎる嫌いはありますが，関連教育病院としては極めて素晴らしいものになりつつあると自負し，これからこの病院に来られる先生達のためにもその礎となるべく，毎日毎日忙しく診療に取り組んでいます。（橋本真実 記）

県立鹿屋病院

森山一郎

当県立鹿屋病院は，大隅半島唯一の耳鼻咽喉科を含めた総合病院で，しかも，大隅地区は，悪性リンパ腫（ATL等）や癌腫の患者が多く，更に放射線療法もととのっている。古い建物の病院の割には活気があり，患者の評判もよく，パラメデカルも充実しているようだ。ただ，お偉い方々の考えはよくわからないが，なかなか耳鼻咽喉科の医師を2人にしてくれないのが困る。1人で悪戦苦闘の毎日を送っており，ややストレスもたまり気味だ。ところで，末期癌患者との接触で印象深かったことがある。一切の治療に抵抗をしめし，もう手のほどこしようもなくなった患者に対し，毎日励ましや冗談を言っていたが，とうとう最期が訪れてしまった。そのあと患者の母親が，息子はいい先生に死ぬ前にめぐりあって幸せだったといつも申しておりました，本当にありがとうございました，とおっしゃってくださった。さすがに胸があつくなり，ふさいでいた心を一掃してくれた。病院外では，有意義なことが多く，小さな町特有の人との付き合いが広がり，ストレスが解消の場をもつことができた。朝早く病棟処置をしてゴルフに行くとか，夜おそくまで仕事をして更に遅くなってから酒を嗜みに行くと言った具合に，小さな喜びが先にあるから何とか体がついていったような気がする。さて，今宵も大隅のヒトを求めて散策するとするか。

肝属郡医師会立病院

小川 敬

「昭和60年度，肝属郡医師会立病院は，開院5周年目を迎えることになり，既存の機

能を充実・拡大し、対前年比実績を10～20%向上させながら総収益も13億円強となり、5年目にしてやっと純黒字を出せる段階となり、本院の未来につき、かすかではあるが、一条の光明を感じられる段階となった。」(肝属医報第五号～五周年記念特集号～巻頭言 院長長濱二三則先生の序文より)

この巻頭言にもあるように、わが医師会立病院は、現在6年目に入り、いわば円熟の期に入ったと言える。当病院の目標は、①医療過疎の解消、②医師の老齡化に対応する新進気鋭の医師の定着、③地域医療レベルの向上、④救急医療への対応、⑤へき地医療対策、⑥マンパワーの確保、⑦卒後研修及び生涯教育の場の確保、その他であるが、そのすべてが現在、満足あるいは納得できるところまでできているように思われる。その中で、小生も当病院に赴任して以来1年9ヶ月を経ようとしているが、耳鼻咽喉科医としてのみならず、救急医療を中心として、へき地診療、老人健診と、外科医あるいは内科医に変身して忙しくかつ充実した日々を送っている。もちろん専門医の立場からは、外来患者数の急増(本年度は常勤医の外来診療が毎日となったためか上半期で既に昨年度を上回る数に達している)や頭頸部外科としての耳鼻咽喉科のアピール、更には垂水地区の降灰検診事業等にも参加している。ただ一つ不満の向きは、年齢構成が幼小児、老人が多く壮年が少いため、またある意味で閉鎖地域であるため手術件数がやや少い。

さて、この病院の持ち味を知っていただくための事例を挙げ近況報告としたいと思う。それは本年8月、不幸にも Sinectomie に際し、麻酔事故が起こってしまったが、院長以下、医局全員の先生方が当日はもちろんのこと、小康を得るまでの何日かを、わが事のように御一緒に治療いただいたことである。また深夜にもかかわらず、鹿大救急部から澤田助教授さらに耳鼻科医局からも昇・古田両先生にも御足労いただいたが、そのような応援依頼も院長自ら陣頭指揮をとっていただいたことに深い感動を覚えた。このように、1つの問題を各科の医師個人のものとしてではなく、医局全員一丸となって解決していこうという強い気迫が感じられ、万事につき各科の連係に関しては目を見張るものがある。またパラメディカルとの交流の場も多く、横あるいは縦のつながりが徐々に固まりつつある。

以上のように、当院はこれからあるべき病院の1つの理想型といっても過言ではなく、大学や公立病院に欠ける数多くの利点を有すると考えられる。

曾於郡医師会立病院

河野もと子

早いもので私がこの曾於郡医師会立病院に赴任して8ヶ月が過ぎました。初めての出張で毎日何かしら頭をかかえこむことに出会うものの、ここに来て耳鼻科の臨床の実際を身をもって体験した気がしますし、大学と違う外の病院の仕事と生活を結構楽しんでいます。具体的にいくつか挙げてみたいと思います。第1に外来患者数、1日70~80多くて90~100人を診るのによく慣れてきました。第2に初めて種々の疾患を診たことです。今までに6人程 malignancy の患者が来院しましたし、急性喉頭蓋炎や扁桃周囲膿瘍後方型等、患者をみてその後、本を見て初めてああこれだと認識し対処したこともありました。また小児副鼻腔炎や鼻アレルギー、滲出性中耳炎でも種々の局面での取り扱い方にしばしば悩んでいます。第3に耳の手術を数回経験させていただきました。鼻や扁桃の手術件数が少ないのは、自分自身の手術適応の理解が不十分であるためと、説明の下手さ故と反省しています。また、事故など無いのは幸いと思っています。

この8ヶ月を振り返るとこのように比較的有意義ではありましたが、まだ臨床面でも、基礎的な面はなおさら、勉強が不足している事を反省しています。残りの4ヶ月ほどをもっと有意義に送ることを期するとともに、こちらでの臨床経験を何かひとつまとめてみたいと考えているきょうこの頃です。

薩摩郡医師会立病院

松山博文

前任の坂本先生の後を引き継ぎ、宮之城の地に出向して、早くも一年九ヶ月が過ぎようとしている。今年4月より宮之城中央病院から薩摩郡医師会病院へと移管され、新しく仲尾院長が就任されて、医師会病院としての第一歩を踏み出した。その後、医師の数も、外科が2名へ増員、11月からは、小児科も常勤となり、さらに医療器機の面でも、全身用CTを筆頭にして、多くの整備がなされた。我が耳鼻咽喉科でも、Audiometer、Impedance AudiometerがNew typeに変換された。さて、現在の状況であるが、本年4月から11月までの外来総数は10,065名（累計）で平均月診療数は、約1,258名である。昨年度の4月から11月までの外来総数9,720名であるから、僅かに増加している。手術件数は本年4月から12月までの総数56件（一部予定を含む）であり、全麻28件、局

麻28件であった。内容は耳7件、鼻26件、扁桃摘、アデノトミー11件、MLS、食直8件、その他4件であった。

外来診療を行っていて気付くことは、宮之城は杉が多く、2月下旬から4月下旬頃まで、スギ花粉症が多い点と、幾分、突発性難聴が多いのではないかと思われる点である。malignantの患者の治療の点では、大学病院、南九州中央病院への紹介も、もちろん行ったが、宮之城から県立北薩病院まで、車で30分の距離であり、橋本先生の御高診、御高療を仰げたことも有難かった。知識や技術の面でも、まだまだ不足している私であるが、勝田助教授の月2回の御指導を戴いて、来年3月まで何とか無事に乗り切れそうである。最後に皆様の増々の御活躍を期待する。

藤元早鈴病院

花田武浩

ここ霧の都、都城の藤元早鈴病院耳鼻咽喉科も、開設されて2度目の冬を迎えました。朝晩の寒さは、うわさにたがわずかなり厳しいものです。

当院には、ABR、一連の平衡機能検査機器、Topography、CT Scan、NMR-CT また高圧酸素療法用の chamber といった具合に、検査設備、治療設備の充実には、目をみはるものがあります。この点、臨床医として非常にやりがいがあり、種々多様な疾患にも遭遇する機会もあります。

さて、とある一日の診療風景を……。

一日の診療は、まず朝の常連さんで始まる。温厚な老人の方々、Schizoのおばさん、この人はいつもしきりに痰を喀出し、その為患者へのムンテラを中断させられることもしばしば……。

昼過ぎよりは、鼻アレルギー、慢性副鼻腔炎の児童、学生が来院し、外来はたちまち喧噪の渦にまきこまれてしまう。

行政圏と経済圏の分離を反映して、隣県となる末吉町、財部町、福山町等からの来院も多いようです。

かくして当院昼の部は、終了していきます。

P. S. : 夜の部 : 天文館に一步も譲らぬ、「Muta City」があります。御来訪の節は、特に良い場所を紹介しますので、よろしく。

国分中央病院

大堀八洲一

国分中央病院は、院長が故郷に錦を飾って建てた病院で、建物も町中で最も大きく、消防訓練も毎年ここで行われます。ベッド数は216床、現在ほぼ満床で、10周年を迎えなお一層の充実を期しております。ドクターは院長以外に内科4名耳鼻科1名で、耳鼻科外来患者は1日120～130名、午前は老人、午後は子供主体の診療で、毎日通気、鼻処置に追われています。当直は救急指定のこともあり、原則的にはありません。手術は必要に応じて行っており、日に3件行う事もあります。手術室は充実しており、コンタクトYAGレーザーもあります。ただ麻酔をかけるドクターがいないので、全麻手術は麻酔科の援助を受けねばならず、日程等の都合で大学や他の関連病院に依頼する事がままあります。その他の点では、大学とのコンタクトも取りやすく治療に不自由する事はありません。桜島の灰も殆んど降らず、近くにゴルフ場も数多くあり、環境は抜群なのですが、何せパートナーがはずれ、この点は期待はずれでした。

しかし、やる気があれば勉強する時間は十二分にあり、第二の花牟礼先生を目ざす人には最適の出先です。昨年は待望のボーナスも出て、職員も張り切っています。

来たれ、国分中央病院へ。

市比野温泉病院

廣田常治

10月1日付で市比野温泉病院勤務になり、早3ヶ月が過ぎようとしています。当病院は内科、外科、脳外科、小児科、耳鼻咽喉科があり、その他リハビリも優秀なスタッフがいるため、田舎の個人病院とは思えない程の活気があります。しかし我が耳鼻咽喉科に関しては、当初、一日の外来数が10数人という日もあり、暇な日々を送っていましたが、最近徐々に患者（新患）数も増えている様です。

耳鼻咽喉科医として、自分は5代目であり長くて1年、だいたい半年という短い勤務期間であるため、患者が定着しないのだろうと思われれます。しかし、市比野の地域医療として、少しなりとも役に立っているものと思います。

11月30日には、理事長である銚之原先生が心筋梗塞にて急逝され、個人病院であるため即日廃院、新設病院届け出となりました。

医局にお世話になったのは言うまでもありません。皮肉にも理事長死去後、村木院長を中心に病院がまとまりつつある様です。

最近2～3週間は、ベッドも満床が続き、開院以来初めてのことだそうです。当然手術件数も増えている様であります。

自分も市比野温泉病院の医師である以上は、当病院の発展のため、また地域のため役立てるようにがんばっていきたいと思います。

鹿児島生協病院

飯田富美子

当院の耳鼻科開設以来1年4ヶ月たちました。トップバッターとして私が赴任しましたが新設の病院のどこもがそうである様に、軌道に乗るまでに半年間かかりました。現在も試行錯誤をくり返しながら、診療の充実を計っています。

この病院の特徴は、総合病院であるため他科の先生方とお互いに連携をとりながら診療できることだと思います。病院が大きすぎず医師同士の日頃の情報交換がスムーズにでき迅速に対応できるのも非常に長所です。但、便利すぎて、合併症や内科的疾患で頼りすぎるきらいがあり、結局自分は何も手を下さない結果となっているため、もう少し勉強せねばと反省している次第です。

患者の特徴は、周囲がどんどん宅地化しているところですので、小児7、成人3ぐらいの比率です。他科よりの紹介もあり、又、救急病院となっているため、外傷患者やめまい患者が多いのも特徴でしょう。

今年の春より近くに山本耳鼻科が開設され外来患者が激減しましたが、市内で交通の便が良かったため、患者が流動的なのもまた特徴的といえるでしょう。

将来は複数体制をとる病院の計画ですが、まだ医局の体制との関係もあり遠いようです。自分マイペースでやっていこうと思っています。

新里病院

小川和昭

12月といっても風のない日は長袖一枚でも汗ばむような暖かさ。私の故郷である沖縄

は人口 120 万人。県都那覇市に隣接した浦添市（人口 8 万人）に仕事場、新里病院があります。当初産婦人科単科で発足し、その後小児科、耳鼻科を加え、現在約60床の中規模病院であります。職員は医師 4 人（産科 2 人、小児科 1 人、耳鼻科 1 人）を含め約50人と比較的大所帯ではありますが、まとまり良く、レクリエーション活動も活発であります。ソフトボール大会、バスケットボール大会、ビーチパーティー、観月会、院長杯ゴルフコンペ等病院あげての行事をはじめ、部署単位のボーリング大会、みかん狩り等盛りだくさんあります。更に沖縄での最大の魅力はマリンスポーツですが、医局でもスキューバダイビングが盛んです。初代 矢野先生、2代目 斉藤先生、そして3代目 私ともに沖縄での生活を大いにエンジョイしております。

ところで、耳鼻科外来は 1 日平均80人、手術件数は年間40～50例のペースですが、周辺人口の割にはいずれも不満足な数字です。

日常診療での努力は勿論の事、大学からの手術応援等により地域住民の信頼を広げたいと思います。“沖縄に新里病院あり”の目標に向かって頑張ります。

天辰病院

松根彰志

天辰病院からの帰り道、大学の医局に寄ると、「おい、松根、今度の当直かわってくれないか」と、云われたことがありました。「外に出ていないようで出ている」「出ているようで出ていない」そんな表現がピッタリの私の独り言です。

私の天辰病院での外来は、午前中、婆ちゃんコンビの通気から始まります。その後、年寄り、病棟入院組、赤ちゃんといったところが続き、昼メシ時間がやってきます。わりとゆっくり、理屈を頭の中どころがしながら診察しています。イライラすることも稀で、おそらくこれは医療行為です。ところが問題は午後です。近隣地区に開業の先生ができ、一時程ではないにせよ、幼小中高校生と続くこの時間帯はどうもいけません。特に、「花の独身」である私には、幼稚園、小学校低学年あたりの「ガキ」、いや「御子様」は大の苦手です。神経がビリビリしはじめ、思わず大爆発寸前となるのをグッとこらえ、単純鼻処置行為を繰り返し、奥歯をかみしめて、ニコッと微笑み、「どうですか、お母さん、ボクの家での調子は」などと間をとってみたりします。何も答えてくれなくてもいいのに、ある母親などは、この問いに対して、ベラベラと私の傷つく事を平気でまく